

留萌市議会は「議会改革」を進めています

★基本となる考え方について

- 第1条 目的
- 第2条 この条例の位置づけ
- 第3条 議会の活動原則
- 第4条 議員の活動原則
- 第5条 会派
- ★開かれた議会へ
- 第6条 市民参加
- 第7条 広報・広聴活動



★相互関係の強化へ

- 第8条 市長等との関係
- 第9条 市長による説明
- 第10条 確認の機会
- 第11条 議決事件の拡大

★審議を深めるために

- 第12条 委員会
- 第13条 議員間討議及び合意形成
- 第14条 政策の立案及び提言

地方自治体は、市長も議員も市民から直接選挙で選ばれる二元代表制により政策が決定されています。

二元代表制



★議会の機能を高めるために

- 第15条 議会改革の推進
- 第16条 議員研修
- 第17条 議会図書室
- 第18条 議会事務局
- 第19条 予算の確保

★議員の身分等について

- 第20条 政治倫理
- 第21条 議員定数
- 第22条 議員報酬
- 第23条 政務活動費

★議会で取り組む危機管理について

- 第24条 危機管理

★検証及び見直しについて

- 第25条 検証及び見直し

「留萌市議会基本条例（素案）」

●「留萌市議会基本条例（素案）」に関する市民意見（パブリックコメント）を募集しています。

【募集期間】 11月15日(金)まで

【応募方法】 意見の提出は市役所3階留萌市議会事務局、市役所1階市民ロビー、保健福祉センターはーとふる、市立病院、市立留萌図書館、るもい健康の駅に備えてある用紙を使用し下記の方法で応募願います。

①郵送 〒077-8601

留萌市幸町1丁目11番地留萌市役所内
留萌市議会事務局あて

②FAX 0164-43-6700

③電子メール rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp

④持参 市役所3階留萌市議会事務局

⑤意見書提出箱へ投函

市役所1階市民ロビー、保健福祉センターはーとふる、中央公民館、市立留萌図書館

●市民説明会のご案内

「留萌市議会基本条例（素案）」の内容などについて、10月下旬より市民説明会を開催しています。（すでに終了している会場もございます。）ぜひ会場に足をお運びください。

日時	会場
10月29日(火) 18:30~	港南コミュニティセンター
	港西コミュニティセンター
	幌糠コミュニティセンター
10月30日(水) 18:30~	港東コミュニティセンター
	東部コミュニティセンター
10月31日(木) 18:30~	港北コミュニティセンター
11月 2日(土) 14:00~ 18:30~	中央公民館 2階 1号研修室 働く婦人の家 2階講習室
	※両会場で2回開催します

もくじ

議会です こんにちは

- P8~9 留萌市議会は市民に対する約束として留萌市議会基本条例を制定します
- P10~13 第3回定例会一般質問項目
- P14 決算審査特別委員会からの報告
- P15 こんなことが決まりました
組合議会報告

留萌市議会は市民に対する議会の約束として 留萌市議会基本条例を制定します

留萌市議会基本条例が 出来るとどんなことが 変わるの？



留萌市議会基本条例は、「市民に対する議会の約束」として、議会の役割と責務を明らかにした留萌市議会の憲法と位置付けることができます。

これまで、日ごろの議員活動を通じて「市民の声」を受け止めながら、議会活性化推進特別委員会で検討を重ね、全議員の合意を得て素案をまとめたところでは。

ここで、市民の皆さんに、これから留萌市議会が作成しようとしている「留萌市議会基本条例」の内容などについて、ご意見をいただきながら、最終的な条例案を完成させたいと思っています。

この条例を制定することによって、議会の責任をしっかりと果たし、市民との協働のもと、市民の声を的確に市政に反映して、留萌の未来を創る議会を実現していきます。

厳しい財政状況の中で、さまざまな行政課題に対処するためには、議会の権限と役割を最大限に発揮できる環境づくりが重要です。

留萌市議会では、「開かれた市議会」や「議会運営の効率化」などを目指すとともに、「議会機能を充実・発展」させるため、議会改革に取り組んでいます。

さらに、この議会改革を具現化するために「行動する議会」、「議会の見える化」を具体的に推進していく「留萌市議会基本条例」を制定します。

平成25年 第3回定例会

一般質問と答弁を
ご紹介いたします

鵜城 雪子 議員
(萌芽クラブ)

一、子どもの安全を考えて
二、冬の暮らしの向上のため

現在、留萌市の留守家庭児童会会の利用者は年々増加している。

全国的には保育終了時間が午後六時以降の施設が、八九%となっている。

留萌市としても実態に沿ったなかで、保育の時間延長を考え、学童保育の充実を図る

の意見を聞きながら、今後の方向性を見極めたい。

地域包括支援センターへ寄せられた主な質問内容は、高齢化による身体機能の低下や痛みによる生活不安。自身の入院などにより、家事ができないなど、残した場合は家庭に対する不安、独居および高齢者世帯として在宅生活に対する心配などであった。

高齢者や家族が不安を抱えたまま生活することのないよう、地域包括支援センターの機能充実に取り組みたい。



▲損傷と腐食が進む湊神社

今冬の雪害による建物の損傷や腐食があり、湊神社の姿は見るに堪えない状況と聞いている。どのように感じているか。

べきではないか。

平成二十七年に施行予定の新制度では、留守家庭児童は、地域の多様な保育ニーズに対応する仕組みづくりが求められるため、留守家庭児童会の開館時間の延長については、子ども・子育て会議設置後、ニーズ調査をした上で、子ども・子育て会議での議論を踏まえて検討する。



▲子どもたちが放課後を過ごす児童センター

今年の大雪で交通網や都市機能がマヒし、多くの市

氏子の会からは、現状保存が難しく取り壊しの話を伺っている。

湊神社の歴史的・文化的価値を後世に伝えていくための資料をまとめてはどうか。

経年劣化と今冬の大雪の影響から建物の損傷や腐食が目立ち、基礎部分への影響、内部の床がめくれ上がっている状況から、大変危険な状態であると感じた。

市として直接的な関わりはないが、るもい呑涛まつり実行委員会事務局として、湊神社境内で記念式典を行うなど、まつりの拠点として活用してきた。

郷土の歴史を研究し、後世へ伝えていくことは必要と考えている。

坂本 茂 議員
(無党派)

災害対策について
二、介護保険について

研究者によると、日本列島から樺太にかけて日本海を縦に連なる地震帯があり、その中で唯一利尻島沖に、少なくとも二百年以上にわたって、地震のエネルギーをため

民が苦境に立たされたという事実があるながらも、留萌市は具体性のある雪害対策を講じていない。

道東や道南の雪の少ないほかの自治体でも、明確な雪対策計画を立てている市がある。

今年の大雪を教訓とした、地域防災計画の見直しや雪対策が急務であると考え、市長の見解をお聞きしたい。

除排雪に関しては、留萌市除雪計画のなかで見直しを行いながら策定している。

また、地域住民の理解と協力を得るため、広報や啓発活動を実施し、地域との連携・協働の促進を図っていく。

野呂 照幸 議員
(民主クラブ)

一、財政健全化計画について
二、地域の産業・経済について

新・財政健全化計画は順調に推移しているが、今後三年間の財政状況の見直しと、職員給与の削減、温水プール「ぶるも」休止の見直しについて考えを聞きたい。

財政の危機的状況は脱

続けている地域があり、大地震が起きる可能性がある、と指摘している。

特に海拔の低い地域や沿岸部の市民にはこうした情報も伝え、自主防災組織の結成を進める必要があると思うが、市長の考えを聞きたい。



▲電柱に設置している海拔表示版

低海拔地域と沿岸部四十四町内会のうち、十七町内会で自主防災組織を設置している。

「沿岸部避難路自主管理」の支援継続とともに自主防災組織の設置を促進していく。

「要支援一」と「要支援二」認定者の現状と、国が進めようとしている要支援一、二の認定者を介護保険制度から外し、市町村に委ねよ

したと考えている。

職員給与については、市立病院改革プランの進捗状況や地方交付税の動向などをしっかりと見極め、総合的に判断したい。

また、温水プール「ぶるも」の再開については、見直しの検討が必要だと思っている。来年度の収支見込みや国の動向を注視し、行財政改革推進本部会議で総合的に判断していきたい。



▲休止中の温水プール「ぶるも」

三月議会で議論された留萌体験・体感宿泊施設について、これまでの経緯と今後の考え方について聞きたい。

観光産業の取り組みの中で、議会をはじめ多くの市民の皆さんにCCZ計画の説

うとしていることに反対の声を上げる必要があると思うが考えを聞きたい。

要支援一と要支援二の認定者は平成二十四年度末で三百人おり、年々増えている。要支援認定者がサービスを受けることは、介護度が進まないための予防策としても重要と考えている。国の最終判断が出ていないが、市町村の財政力でサービスに違いが出るのでは公平を欠く。持続的サービスが可能となるよう基本に返って議論する必要がある。

天谷 孝行 議員
(留萌公明党)

インフラ総点検・長寿命化計画策定について

病院改革プランの経過と「理念と権利」について

社会インフラの整備強化は命を守る防災・減災に直結する。

橋などの構造物は、経過五十年前後から、点検・診断・修繕の計画的かつ効果的な整備保全が必要だ。留萌市が管理する橋りょう数と長寿命化計画の実進

明責任を果たせず、方向性を見いだすことができなかった。

より多くの市民の皆さんの理解を得なければいけないと考え、今年度の予算については取り下げた。

施設の運用における問題もあり、任期中に進めることについては現時点ではない。

村山ゆかり 議員
(萌芽クラブ)

高橋市政二期目の検証と展望

湊神社の歴史的・文化的価値について

平成二十五年市政執行方針に盛り込んでいる「留萌体験・体感宿泊施設整備事業」は、一部反対の声を受け、三月定例会で予算計上を削除したが、市長の任期内に建設する可能性はあるのか。

市民アンケート結果では、「老後の暮らしへの不安や心配」に対する回答が多い。具体的な不安内容の把握と対応策について伺いたい。

CCZ計画におけるゴールデンビーチと宿泊施設の位置付けを再確認し、市民

の状況を知りたい。

留萌市の管理する橋りょうは六十二橋あり、架設後三十年以上経過した橋は、三十橋、四十年以上経過の橋は十六橋におよぶ。平成二十三年と二十四年の二カ年で、三十一橋の点検を終了し、二十五年度で長寿命化計画を策定し、点検結果と重要度や緊急度を基に「予防保全」を考慮し戦略的な維持管理・更新を実施する。



▲医師確保を目指し建設する新施設整備完成図

市立病院改革プランは、政府の方針を基に平成二十一年策定、その後リハビリ棟開設と総合内科医養成センター運営を加え改訂した。さらに、二十五年七月に医師確保を目指して「新施設

整備」追加の再改定を実施した。改革プラン改定経過の「理由と効果」を伺いたい。

併せて、市立病院の基本理念と患者に対する接遇を聞きたい。

「回復期リハビリ病床」は地域の高齢化に伴う脳梗塞・肺炎・心筋梗塞など回復を地域において完結する目的で病床数三十五床で開設し、入院患者数は七千七百八十九人、病床稼働率は六一・一％である。

さらに、医師を含む全職員の接遇研修に重点をおき「患者から信頼される病院」を目指して良質な医療提供とサービス向上に努めたい。

菅原千鶴子 議員 (民主クラブ)

明記する方向で検討に入りたい。

私は「核と人類の共存は有り得ない」と考えているが、高橋市長は国が推進している原子力依存のエネルギー政策をどのように思われているのか聞きたい。

「答二」未来の子どもたちに負の遺産である核のごみを残してはいけなく強く感じている。政府において、原発のさらなる安全性の向上と国民の安心、信頼の確保に向けた対応が重要だと考えている。原発は国のエネルギー政策に関わる大きな問題であるので、これからも国の動きを注視していきたい。

川口 宏和 議員 (萌芽クラブ)

一、地域活性化について

二、今後の観光計画について

「問一」超高齢化社会・人口減少・右肩下がりの経済というこれまでに経験のない新たな時代を迎え、地域を取り巻く課題も多様化するなど、環境も大きく変化している。今の状況を時代の転機と捉え、新たな時代に即した地域

一、市立病院改革の今後の展望について

二、学校教育と家庭教育について

「問一」医学生への宿泊施設を市立病院に隣接して建設するが、改革プランの中にはなかった計画であり、急ぎよ発表された。今年度中の建設という非常に性急に見える計画である。この施設のもたらす効果と展望について聞きたい。

また、脳外科の診療は一人体制が続き、苦勞されていると承知している。このことから外来患者・入院患者が減少することも仕方がないと思っていた。

しかし、現在、昨年実績より増加傾向である。多田先生の入並み外れた頑張りのおかげかと思っているが、いつも混雑しているのを見ると診療体制の見直しや医師確保の必要性は高いと思う。

院長はどのように評価しているのか。医師確保の可能性を聞きたい。

「答一」医育大学から研修医が来る環境づくりとして宿泊施設は有効だと思う。研修先に赴任希望する医師がいること

コミュニティ施策のあり方、そして活性化策などについて改めて検討していく時期にきている。地域コミュニティ衰退の要因と再生に向けての方策をどのように考えているのか聞きたい。



▲町内会の皆さんが整備した花壇(花園東公園)

「答一」地域コミュニティの衰退は地域の活力だけでなく、地域の安心・安全を脅かす原因となることから、地域コミュニティの核となる町内会の自主活動の促進と地域との連携強化が不可欠だと認識している。

単一町内会で町内会活動を維持できない場合は複数の町内会が協力、連携することや組織化することが必要だと考えている。

も事例としてある。

脳外科医については多田先生には大変ご苦勞をおかけしている。私も多田先生の健康について心配している。出張医の派遣を辞退している状況なので、実際の問題として何としても固定医の確保に努めたい。



▲生活習慣定着のための「生活リズムチェックシート」

「問一」早寝早起き朝ごはん運動をはじめとし、子どもの生きる力を育む上で、学級だよりなどを通して保護者の方にもいろいろな働きかけをしていこうと思うが、ゲームやメールなどを長時間行い「ネットトラブル」や「ネット依存」を防止するために生活習慣の改善などの働きかけや取り組みを継続的に行う必要がある。

今後も町内会長会議などの機会を通して、市民の皆さんと対話を進める中で先進地事例などの情報提供を積極的に行っていきたい。

「問一」今後、留萌をより住みやすいマチにするためには、「観光」が、基幹産業として最大限に機能しなければならぬ。通過型観光からの脱却を図るための、今後の取り組みについてお聞きしたい。

「答二」今春に高規格幹線道路の留萌大和田インターチェンジが開通し、都市部からの交通の便が良くなったことで、車で留萌を訪れる人が増えてきたと感じている。

今後は留萌にある自然や食、体験などの資源を磨き上げるとともに、新たな資源の開拓に努めていくことが大切。留萌らしい、留萌ならではの観光サービスを提供していくことが、新たな観光客の誘致や滞在時間の延長につながるかと考えている。

野崎 良夫 議員 (無会派)

一、来春の市長選挙について

どのようになっているのか聞きたい。

「答二」生活習慣チェックリストを夏休みに行った。校内では携帯電話の持ち込みは禁止となっているが、「ネットトラブル」について研修を行っている。今後も、あらゆる機会を通して、啓発していきたい。

珍田 亮子 議員 (萌政会)

一、留萌市の道路整備

二、留萌市の環境行政

「問一」仮称「見晴通」が整備されれば、緊急時の車両通行や避難路として重要な役割が果たせる。

予定では、昨年十二月中旬に都市計画変更の完了をし、未処理用地の買収や所有権移転の登記完了、素案の作成後、都市計画審議会への報告と聞いているが、これまでの経過と今後の説明や取り組み予定などを聞きたい。

沿線住民や町内会への情報提供をどうするのか聞きたい。

「答一」見晴通の都市計画決定の手続きは二十四年度中の完了。

「問一」この四年間「財政健全化、市立病院の経営、環境衛生、景気浮揚」など数多くの課題に取り組んで来られたが、来春の二月には、市長選挙が執行される。

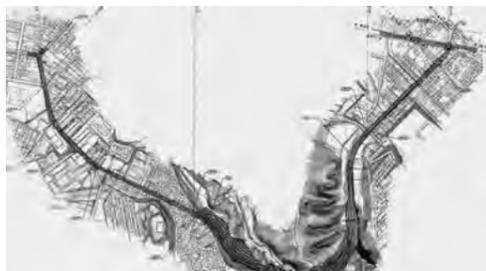
特別な事情がない限りは、政策的に未執行の課題、また、完結していない施策もある中で、三期目に向かって当然、出馬する意気込みがあるものと判断されるが、いつの時点で進退を明らかにするのか、お伺いする。

「答一」私が市長に就任して、七年七カ月を迎えようとしているが、「財政再生団体」への転落という大きな峠を、市民の協力、市職員の苦渋の選択によって越えることが出来た。

市長選への出馬については、再度、市民の声を聞きながら十二月中に判断したいと思っている。

「問二」平成十五年に、地方自治法の一部改正により、公の管理制度として「指定管理者制度」が導入され、留萌市においても、現在十七の施設が指定管理者制度で運営され、八年を経過しようとする中で、さまざまな課題が明らか

子を見込んでいたが、道との下協議まで至っていない。見晴通の終点となる国道二二一号との交差点計画について、関係機関との合意形成に時間を要している。道との協議が進んだ段階で計画変更が定まり次第、住民説明会を開催する。



▲仮称「見晴通」の計画図

「問二」福島第一原発の事故から二年半が経過したが、未だに収束のめどが立たないばかりでなく、新たな問題として高濃度の放射能汚染水が地上からも地下からも漏れ出し、打つ手が無いといった状況である。

経済産業省は今年度末にまとめるとして、新たなエネルギー基本計画に原発の活用を

になって来た。

今一度、各施設運営の詳細な検証を行うべきである。

今後、指定管理者制度に、どのようなスタンスで取り組んで行くのか、展望を明らかにするとともに、個別の施設運営をしていくための使命をはっきりさせるべきなので、お伺いする。



▲指定管理者制度で運営している施設

「答二」市としては、統一した基準に基づいて、指定管理者選定委員会が総合的に判断、評価し公表している。

その結果を受けて、指定管理者と連携を密にし、施設の更なるサービスの向上と適正な管理に向けて、コストカットにこだわらず取り組みを進めていく。

こんなことが決まりました

第3回定例会 9月3日～25日

平成25年第3回定例会が23日間の会期で開催され、一般会計補正予算、条例制定などを審議しました。

【選挙】	留萌市選挙管理委員会委員および補充員の選挙について……………	指名推選
【認定】	平成24年度留萌市各会計歳入歳出決算の認定について ほか2件……………	認定
【報告】	平成24年度留萌市の健全化判断比率の報告について ほか1件……………	了
【議案】	平成25年度留萌市一般会計補正予算（第7号） 補正予算のうち、PCB（ポリ塩化ビフェニル廃棄物）汚染物処理委託料27,269（千円）は、現在までPCBを含んだ蛍光灯安定器などを、特別管理産業廃棄物管理責任者を置き、本庁舎地下電気室にて保管してきたが、室蘭市でPCB廃棄物処理施設が稼働することにより、今年度処理を行うために補正予算が可決しました。 留萌市子ども・子育て会議条例制定について 子ども・子育て支援法第7条第1項の規定に基づき、留萌市子ども・子育て会議を設置するため、この条例の制定が可決されました。 ほか6件……………	原案可決
	留萌市公平委員会委員の選任について ほか2件……………	同意
【意見書】	「地方税財源の充実確保」についての意見書 ほか3件……………	原案可決

留萌南部衛生組合議会報告

●第2回定例会報告（8月26日）

第2回定例会が開催され、「認定第1号 平成24年度留萌南部衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定について」、「報告第1号 平成24年度留萌南部衛生組合事故繰越計算書について」協議し、可決した。

○第三者委員会からの報告

最終処分場被覆施設の倒壊原因調査結果がまとまり、第三者委員会から正式な報告が組合長並びに副組合長と、各議員に行われた。

原因の究明により構造上の荷重に関する報告を受けた議員からは、「昨年度のような大雪の場合、同じようなことが起こりうるのか」、「雪下ろしは必要にならないのか」などの質問が出された。

今回の事故を受け、構造上24年度程度の雪には耐えられるように設計されていること、引き渡しまでの期間中、屋根上積雪量とたわみについて情報を開示することが受託者から説明された。

●第2回臨時会（10月4日）

臨時議会が開催され、新しい監査委員が選任された。

○最終処分場視察

第2回臨時会后、増毛町の最終処分場建設状況の視察を行った。

議員からは、倒壊事故の原因と指摘された束材の補強設計箇所や基礎部分のアンカーボルトの接着、耐久度と安全性などについて質問があった。

供用開始後、2年間にわたり施工事業所が積雪の状態を監視し、今後の除雪計画案を決定することになる。

昨年までの施設に比べ重量感が増し、鋼材の材質が堅強なものになったのが目視で確認できた。



▲建設中の最終処分場

議会広報特別委員会

委員長 菅原千鶴子、副委員長 鶴城 雪子
委員 燕 昌克、川口 宏和、天谷 孝行

決算審査特別委員会からの報告 （一部抜粋）

総務費

Q 村山 出前トークは前年度対比でどうなっているか。

A 四十五回開催し、五百二十四人が参加。主な申し込みのうち、三十二件が新しいごみ処理についてであり、新しいごみ処理については、ごみ分別ハンドブックを見ながらの説明を行い、その後は広報誌や美・サイクル館だよりで周知した。そのほか、八件が防災についてであった。



▲ごみ分別ハンドブック

Q (坂本茂) N T T ユーザー協会負担金について聞きたい。情勢変化にあわせ、再検討しはどうか。

A 情報化が進んだ中でも光回線の推進が行われ、広告掲載で多くの協力を得ている。
Q (対馬) 市民満足度調査で窓口対応が下がっているが、職

員の接遇研修はどのように広めていくのか聞きたい。

A 昨年はリーダー養成研修を主事クラス三人に受けさせ、計画的に実施し、研修を受けた職員が実践し、同僚に広げている。管理職が普段から助言、指導を行っている。

Q (松本) 広報誌委託の費用対効果について伺う。

A 広報誌自体の市民評価も徐々に高まり、徐々に職員の作業量も減ってきている。

民生費

Q (菅原) 障がい者保健福祉計画のアンケートの中で大雪による除雪サービスについての要望が多かったとあるが、解決策は見出せたのか。

A 高齢者宅だけでなく障がい者宅にも除雪できる体制を作っていく。

Q (鶴城) 留守家庭児童会の利用者は港北十人と比べ、住之江は八十三人と八倍も多いのに、医薬材料費が住之江の方が少ないのはなぜか。

A 医薬品は消耗品であり、必要に応じて対応していきたい。

衛生費

Q (燕子宮頸がんワクチン接種事業百五十八人の任意摂取について聞きたい。全国で二千万の被害報告があるが、留萌市では報告はあるか。また、今後について聞きたい。

労働費

Q (野呂) 南留萌地域通年雇用促進協議会において、季節労働者八百四十五人の問題を含め課題はなんだったのか。

A 複数年にわたる課題解決と実態把握が足りないという報告があった。高齢化の問題もあるが、五十代の対象者も増加している。

農林水産業費

Q (坂本茂) 農地・水保全管理支払対策推進事業が減少したのはなぜか。

A 申請手続きは減少したが、活動は継続している。事前事後における現地撮影などの手間が煩雑なことも一因となっているが、地域そろって交付申請を検討していただきたい。

商工費

Q (松本) 週末の花火の事業は

思いのほか好評であったが、どのような効果があったか。
A 直接的に効果の検証は出来なかったが、雑誌などにも取り上げられ、知名度向上の効果はあったと思う。



▲留萌海岸花火大会

Q (菅原) 商店街の除雪では、お客様を迎えるより除雪に追われる日々だったと聞いているが、除雪関連の助成方法について他に考えられないのか。

A 開運町商店街には排雪回数を増加したり、今後話し合いをしていく。

土木費

Q (坂本茂) 市道管理のうち中央センターラインが引かれていない箇所があるのではないか。

A 毎年部分的に消えている箇所を補修しているが、再度確

教育費

Q (対馬) 学校給食の残食は、食育の点からも重要な問題だ。子どもにアンケートを取ったことはあるのか。

A 残食量は二十五・八トンと若干増加している。まるごと留萌給食やリクエスト給食などを実施し、教師から毎週意見を聞いている。

Q (菅原) フッ化物洗口委託で、液体の保管について施設管理しているか。

A 確認していないが今後管理していきたい。

Q (村山) 芸術劇場助成事業では、いつも同じ団体が助成を受けているが、市の考え方を伺いたい。
A 一定程度の見直しをしながら可能な限りの助成をしていきたい。

歳入

Q (野呂) 使用料・手数料の収入未済額の要因として考えられることは何か。支払い能力がある方への対応は、どのようにしているか聞きたい。
A 収入未済額増加の要因は、低所得が大半であり、分納誓約を交わしたり、訴訟になっているケース四件ある。